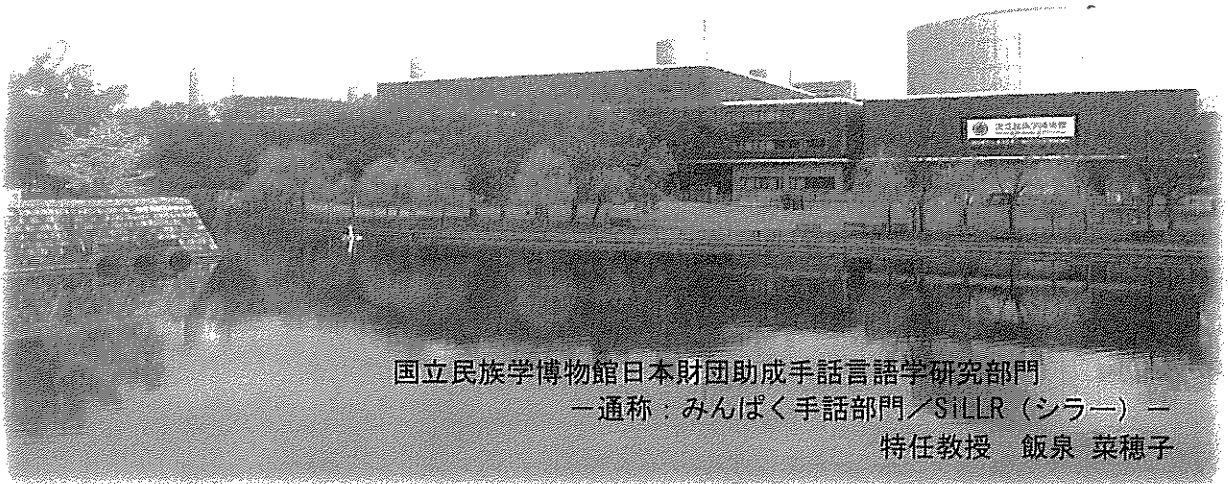


## みんなくでの学術手話通訳養成事業の取り組み④



国立民族学博物館日本財団助成手話言語学研究部門  
一通称：みんなく手話部門/SILLR（シラー）  
特任教授 飯泉 菜穂子

### 学術手話通訳研修事業「研修員」スクリーニング（選考試験）・・・・・・・・・・

みんなく学術手話通訳研修事業では、毎年、研修員を専攻するためのスクリーニング（選考試験）を実施しています。SiLLRが設立される前のトライアルプロジェクト時代後半からこれまでに4回実施してきました。現在では、スクリーニングは二段階に分けています。書類による一次選考と、手話通訳実技試験・面接による二次選考です。スクリーニングの内容を知っていただくと、私たちの研修事業の目指すところがより具体的にイメージしていただけるのでは？と思いますので、今回はこのスクリーニングについてご紹介いたします。

先ずお断りしておきたいことがあります。より良い事業展開を目指す中、スクリーニン

グの手法や内容についても毎回見直しを行っています。現在、まさに来年度（2018年度）のスクリーニングのために諸準備を進めており、これまでよりも更に多くの方に研修員を目指してもらえるよう運営メンバーと内容の整理をしている段階ですので、今回ご紹介する内容が今後もずっとそのまま続くということではありません。このエッセイを皆様にお読みいただく時期には、来年度の研修員募集・スクリーニングについて方向と内容が確定しているはずですから、最新の募集内容については、後日、SiLLRのHPなどでご確認いただけたらと思います。

### スクリーニング一次選考・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

一次選考は書類で行います。応募書として指定書式でいわゆる履歴書（学歴、社会人歴、手話学習歴、手話通訳歴、学術手話通訳を目指す動機や研修に期待するものなど）を記入・提出してもらうのはもちろんのことですが、重視してきたのはもう一つの提出書類です。それは、学術論考の要約文。応募の意思表示をい

ただいた方には、研修員応募担当からまとめたボリュームのある学術論考を課題としてメールでお送りします。その課題論考を読んだうえで数百字に要約したものを提出してもらいます。これまでは、SiLLRで資料を提供しやすい分野ということとで、言語学の研究論文や言語学者のエッセイを課題としてきまし

た。  
要約文というのは、書き手(まとめ手)についての情報を沢山含むものです。その論考をどのくらい読み込んでいるか、論理展開が追えているか…といった、提供した「その課題」に関する理解力ばかりではなく、そもそも学術論文(論理的な文章)を読むことに慣れているか、要約とはどういう作業か理解できているか、その理解に基づいて要約が出来ているかといった「要約」そのものに関する力や「日

#### スクリーニング二次選考

二次選考は手話通訳実技試験と面接を行います。手話通訳実技試験は、読み取り・聞き取りとも、あらかじめ収録してある「模擬講演(学術的な内容)」について行ってもらいます。二次選考を受けていただくことになった方には、一次選考通過の通知とともに、二次選考実技試験(模擬講演)に関する「通訳用事前資料」をメールでお送りしておきます。この事前資料をもとに通訳準備を進めていただき、当日に臨んでいただきます。

試験当日には、読み取り・聞き取りとも該当年度の模擬講演を担当してくださった講師の先生にご協力いただき、1) 講師との通訳事前打ち合わせ、2) 通訳実技の両方を実施、評価者による評価を行います。手話通訳に関する様々な試験がありますが、1) の講師との通訳事前打ち合わせの様子を評価者が観察し評価するという方法は他では未だ採用されていないのではないか…と思っておりますが、いかが

#### スクリーニング評価など

みんなくの学術手話通訳研修事業は、毎年度、みんなく内外の専門家による運営メンバー体制をとっており、スクリーニングの評価・合否決定もこの運営メンバーが行っています。

本語運用力」まで書き手(まとめ手)についての情報を読み解くことが出来る、選考をする側にとっては貴重な資料となるものなのです。一次選考の目的は、二次選考(通訳技術試験と面接)に進んでいただく方を絞り込むということではありますが、同時に、これから共に研修員として活動していただく可能性のある方たちの日本語力や文章理解力…文章を読み込む作業をする際の傾向や特徴を運営側が把握するための作業でもあるのです。

でしょうか？  
講師との打ち合わせから観察・評価させてもらうことで、事前準備が適切に行われたかどうか、その準備に基づいて制限時間の中で効率よく質の高い打ち合わせが行えたかどうか…ばかりでなく、その打ち合わせが実際の通訳パフォーマンスに適正に活かされたかどうかまでを一連の流れとして見ることは、大変有益であると思います。また、読み取りの打ち合わせは手話で、聞き取りの打ち合わせは日本語で行いますので、通訳パフォーマンス時と打ち合わせ(通常の会話)時の手話および日本語運用力の違い(があるかないかも含めて)も見ることが出来るわけです。面接は、(それぞれ研修における役割を異にしている)聴者複数名が担当し、日本語で、応募書(履歴書)に記入していただいた内容の確認等を行います。

ただし、二次選考時の評価(実技・面接)に関しては、運営メンバー以外に手話通訳養成・評価、通訳者活用に習熟した外部評価者のご協力も得ています。実技試験の際は全評価者に

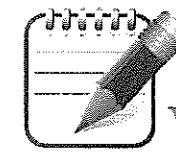
## みんなくでの学術手話通訳養成事業の取り組み④

SILLR が作成した「評価票\*」を用いて行っていただき、フリーコメントも記入してもらっています。

スクリーニングに関する応募者との一連のやりとりはすべてメールで行うこと(事前資料については添付ファイルもしくはクラウドを活用して共有すること)を前提としていま

す。また、一次選考・二次選考とも、準備にネット等を活用して情報収集していただいて差し支えないということを募集要項等で明言しています。ですので、メールやネットの活用に抵抗がない(不慣れであっても対応して下さる)ことも、研修員になっていただくための条件となってくるかと思えます。

\*みんなく学術手話通訳研修事業で用いている評価票の一部(読み取り通訳・聞き取り通訳実技評価票)は、トライアルプロジェクト時代に、日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク(PEPNet-Japan) 情報保障評価事業が作成した「大学における手話通訳チェック表」を参照して筑波技術大学と共同で作成した評価票が原型になっています。現在では、みんなくの事業に合わせて大幅に改変されています。



## Workshop Report

### 研修会報告

#### 政見放送研修会(総務省・三団体政見放送検討委員会主催) in 富山

日 ち	2018年1月27日(土) 9:15~15:30
会 場	社会福祉法人富山県聴覚障害者協会
講 師	小椋武夫氏(一般財団法人全日本ろうあ連盟) 武居みさ(一般社団法人日本手話通訳士協会理事) 望月香代(一般社団法人日本手話通訳士協会政見委員)



研修開催詳細、参加者の声は次月号にてご報告いたします。